

非暴力平和隊・日本(NPJ) ニュースレター

第93号

2025年9月10日発行

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 1 階 A 室
スペース御茶ノ水気付 非暴力平和隊・日本

Tel: 080-2678-5973 E-mail: office@np-japan.org

Website: <http://np-japan.org/>

Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

- | | |
|------------------------------------|----------|
| ・参院選一問われる民主主義と非暴力平和 | 安藤 博 2 |
| ・いまこそ、辺野古・大浦湾へ集まってください！ | 島 しづ子 5 |
| ・『平和の国・日本』誕生と食糧自給で平和を
世界に広げましょう | 尾崎 秀子 10 |
| ・私の非暴力直接行動 | 谷 百合子 14 |
| ・NPJ 2024年度決算報告 | 大橋 祐治 17 |
| ・NP 2024年度活動・収支報告 | 大橋 祐治 18 |
| ・カンパお礼 | 20 |



辺野古新基地建設に向けて埋め立て、土壌「改良」工事が行われている大浦湾
大浦湾。砂杭を打ち込むための高さ70メートルのサンドコンパクション船

参院選－問われる民主主義と非暴力平和

理事 安藤 博

この7月20日投票の第27回参議院議員選挙に社民党全国区比例代表として立候補した沖縄の山城博治さんの選挙応援に、わざわざ加わりましたが加わりました。

社民党を含めてどの政党にも特別の思い入れはなく、山城さんの選挙応援はもっぱら沖縄・辺野古米軍基地建設抗議活動などでご一緒した縁によるものです。山城さんが2016年10月、米軍北部訓練場内に侵入し有刺鉄線を切断したとして器物損壊の現行犯で逮捕されたときは、名護警察署や那覇地方検察庁に沖縄の仲間たちと出向き、留置場に向けて激励の声をかける行動に加わったりしました。

5月16日に国会議員会館で開催された山城応援の「勝手連」を立ち上げる集会に参加し、東京・新宿区早稲田に置かれた勝手連事務所で選挙チラシの発送作業などをしました。7月3日の公示日後は、自分の居住地千葉県市川市の護憲／平和活動の仲間たちとJR常磐線柏駅などでの駅頭活動。JR武蔵野線新松戸駅ではちょっとした応援演説もしました。

残念な結果

選挙結果は、予想されていたとおり落選。社民党としては国政政党としての生き残りをかけた選挙でしたが、かろうじて一人が当選。政党要件の「2%以上の得票率」をすれすれで満たす2.06%を得て、

“政党失格”を免れました。

6月に開催された勝手連の集會中に、社民党の全国区候補としてタレントのラサール石井氏を擁立することが伝えられて、同席していた古手の社民党のひとが「これで山城はお終いだ」と苦い表情でつぶやきました。「社民党2人当選は無理で、ひとりがやっと。全国レベルの知名度はタレントの方が圧倒的に高いので」と。結果はその通りになりました。

それにしても35,779という得票数は、山城さんが12年前の2013年、第25回参院選に出馬したときに比べてあまりに少ないものです。前回も落選でしたが、112,641票を得ていました。それが約三分の一に減っています。

改憲勢力が国会の内外で侮れない勢いをみせているなか、かつて憲法改正の国会決議を阻む三分の一の議席を占めいわゆる<55年体制>の一角をなしていた社会党（現社民党）が、その存在を失うことのないようにと切望します。しかし改憲阻止を望む戦争体験者は急速に減っていて、戦後生まれが約85%に。社民党がそうした時代の変化から取り残されていることを、山城さんの残念な落選はいよいよはっきりさせているのでしょう。

二大政党の終わり

今回の選挙結果を評して法政大教授

(政治学)の杉田敦さんは「時代にそぐわなくなった二大政党を目指す政治」(『マスコミ市民』 2025年8月号)と記しています。「既成政党に対する失望感が強いから・・・世論の方も決して二つの政党に収斂する方向に向かってはいない」「多党化の現実を受け入れて、比例代表制や中選挙区に選挙制度を変えていかななくては」としています。

いわゆる55年体制下では、自民党と野党第一党の社会党とで衆議院議席の9割を占めていました。2003、2009年には自民党と民主党の二党で衆議院の8割を占め、参議院も2004年には同じように8割を超えていました。それが、今回の参院選では自民が減る一方立憲民主は横ばいで、両党の議席占有率は6割を割っています。

「上位2党の割合が55年体制以降で最も小さくなった」(『日本経済新聞』2025/8/15)のです。2党以外の、国民民主そして参政党の躍進による多党化です。戦後民主主義のあり方が、ひとつの岐路に立っていると考えられます。

安倍、菅、岸田と続いた自民党政権は、集団的自衛権行使、敵地攻撃能力の保持、武器輸出規制の緩和など、日本を“戦争が出来る国家”へと強行していきました。こうした憲法9条に反する動きを阻止しようと、私たちは護憲/平和の市民活動で自民党を選挙で倒し野党の政権に交代させる、そのため野党統一候補で自民党に当たることができるよう、野党間の連携を

市民が後押ししていくことに努めました。今度の参院選でも、山城応援と合わせてそうした「野党統一」への働きかけに努めていました。

しかし、今回の参院選で「二大政党の終わり」が決定付けられたということになると、これまで“万年与党の自民党”を相手に野党連携を図ろうとしてきたことは、変わってしまった政治の現実からいかにもズレていると言わざるを得ません。

キャッチコピー

兵庫県知事選、東京都知事選でクローズアップされたSNS活用による選挙民へのアピールが、今回の参院選でも大きな働きをしていたようです。これまた街頭演説、駅頭でのビラ配りしか知らない私のような旧世代には遠い政治/選挙活動の現実です。山城選挙応援のなかでも、そうした“新兵器”が活用されていた様子はありません。

SNS活用で代表されるような新しい(実はもはや新しくもない)手法の政治活動はまた、短く単純な言葉、キャッチコピーを駆使することと合わせて行われていました。選挙の勝敗に、キャッチコピーは決定的だったとされます。駅頭演説では自民党をふくめてどの候補も、物価高にどう対処するかを「給付金」だの「消費税ゼロ」などと訴えています。しかし、参政党躍進の決定打となったのは「日本ファースト」だったでしょう。SNSとキャッチコピーで政敵を圧倒したのは、他な

らぬトランプの「アメリカファースト」です。米国大統領選挙で、安全保障や社会保障改革のような説明に言葉を要する基本的問題を飛び越えて耳に入りやすい短くて単純な言葉「アメリカファースト」をわめきたてることで、政敵民主党を「高学歴／高所得の既存勢力寄りの旧弊な政党」であるかのようにしてしまったのです。

参政党も「日本ファースト」を駆使しています。それは、トランプと同じように外国からきたひとに失業/低賃金、犯罪増加の責めを負わせる排外主義と背中合わせになっていて、「ガイジン」を忌避するポピュリズムに訴えやすい言葉です。

SNS／キャッチコピーは、これまで政治には遠かった人たちが政治に近づくきっかけとなる利点があるでしょう。同時に根拠のない「外国人増加の弊害」を訴えて、自らの鬱積する不満のはけ口とする言葉の危険もはらんでいます。

「非暴力平和」とは？

言葉の問題は、国内の選挙戦や政権争いの場に止まるものではありません。

国連憲章で定められている戦争と平和に関わる国際法上の規範が、規範の意味を失いつつあります。米国大統領トランプは、国際人道法に反する民間人虐殺で国際刑事裁判所から逮捕状が出ているイスラエル首相ネタニヤフを、何のためらいもなくホワイトハウスに招き入れている。同じく国際刑事裁判所から逮捕状が出ているロシア大統領プーチンを、自国

領土内のアラスカに呼び入れて会談しました。それでも「会わないよりは会った方がいい」と言わざるを得ないほどに、殺戮破壊がガザ、ウクライナでは続いています。国際社会は、戦場でしか、暴力（戦争）でしか、つまり殺し合いを極めるまでは平和にはなり得ないかのように、その秩序が崩れてきている。そんな世界で「人権」や「平和」「国際秩序」をどんな言葉で、意味のあることとして説明できるでしょうか。

こんな国際社会で「非暴力平和」が難しくなっていることは、そのまま日本国内に投影されて「軍事費倍増」「トマホークミサイルの購入」「護衛艦輸出」といった、かつては憲法 9 条の下でまともに口にはできないようなことが、ふつうにまかり通るようになっていきます。

沖縄で、特に若者たちには、山城博治さんが“業界用語”で反戦平和を語る“業界人”とされかねなくなっています。「ハンタイハンタイはこわい。わたしたちが求めているのは、愛とやすらぎなのだ」と彼らはどうのです。そして、翁長県知事時代には光彩を放っていた「オール沖縄」は、いまでは沖縄全土に通る言葉ではありません。

私たち非暴力平和隊・日本は、どのような言葉で多くの人に分かるように「非暴力平和」を言うことが出来るのか。しっかり考えねばならないと思います。

いまこそ、辺野古・大浦湾へ集まってください！

会員 抗議船船長 うふざと教会牧師 島しづ子

沖縄島の4月から6月は島全体が、沈痛な思いに満たされます。普段の平和創造行動以上に、慰霊などの集会・行事が続きます。今年は「戦後」80年ということでさらに行事が多かったです。「戦後0年」という題や表現も多く使われていました。

沖縄県外からの客人が殺到する6月23日前後は忙しくて、乗り切るのに必死でした。

今、大浦湾は大変な惨状です。まさかまさかと思っていましたが、軟弱地盤に砂杭を打つという作業は想像以上に大浦湾の環境を悪化させています。多くの方に知っていただいて、早くこの新基地建設を止めなくてはと思います。それなのに、海上行動メンバーは加齢やそれぞれの事情で激減しました。日々の活動に支障をきたすほどです。メンバーを増やしたいと思っています。どうか、現場に来てください。

2025年6月23日 魂魄の塔で開催された「国際反戦沖縄集会」で行ったスピーチをここにも掲載していただき、現場の様子を知っていただこうと思います。

(以下、スピーチ)

みなさん こんにちは！

新基地建設反対海上行動メンバーの島

しづ子です。2020年4月から南城市にあるうふざと教会の牧師になりました。72歳の時に船長資格を取り、5年間船長として活動してきました。今77歳で最年長船長です。海上行動チームは「辺野古ぶるー」と言います。「辺野古ぶるー」で船長になるまでのことをお話しさせていただきます。

2020年4月はコロナ真っただ中でした。6月のある日、佐敷教会の金井創(はじめ)牧師とミミ船長が渡嘉敷島に連れて行ってくれました。ケラマブルーの海に驚きました。一方渡嘉敷島で起こった集団強制死のこと、軍隊慰安婦とされた女性たちを祈念するアリランの碑を見ました。その時、沖縄の美しさには深いかなしみがこもっているのだと思いました。このことを描きたいと思い、水彩絵の具で絵を描き始めました。

うふざと教会は新基地建設が1日も早く止まりますようにと毎週祈り続けている教会です(私の前の牧師は平良修さんです)。辺野古に通い抗議船の乗組員になりたいと言いましたら、みな喜んでくれました。

初めは抗議船の助手になりました。すると船長たちが「この岩場では誰それが飛び降りて骨折した」「そこでは誰誰がこ

んな失敗した」と話してくれました。また 400 年も生きているサンゴや何億年もかけてできた洞窟を見せてくれました。

辺野古では抗議船平和丸や不屈に乗りました。安和棧橋ではゴムボートに乗りました。そのうちにカヌーメンバーから、船長免許を取りなさい、カヌーに乗りなさい、ダイビングを習いなさいと無理難題を言われました。「とんでもないです。もう 72 歳です」と断り続けました。

抗議船の上で、10 か月助手をしていましたが、「船長に何かあったら助手が操船するんだよ」と誰かが言いました。「それは大変だ、習わなくては」と大急ぎで 73 歳の 2 か月前に免許を取りました。そのころはコロナのために船長もカヌーメンバーも足りませんでした。私のような「年寄り」をなんとか操船できるように育ててくれたのは人手不足だったからです。そのころの新人船長は、元校長先生のかんちゃんが 60 代の終わりで、あと映画脚本家の人と私が 72 歳でした。自分たちより若い船長たちに叱られながら、三人で励ましあって腕を磨きました。

2021 年夏に、辺野古と大浦湾でサンゴ移植が始まりました。カヌーメンバーがその様子を監視するためシュノーケルをつけて海に潜っていきました。船の上からはよく見えませんから、海の中を見たいと思いました。シュノーケルを習おうと思い、教室を調べました。65 歳制限があり、習えません。そのことを牧志治船長

に話したら、特別に教えてくれました。それでシュノーケルで海の中を覗けるようになりました。

元気のサンゴが生息している場所から切り割られて運ばれ、住み慣れない環境にポンドのようなもので植えつけられ続けました。そのサンゴをあとから追跡すると、ほとんどが死にそうでした。辛い景色でした。

一方工事が行われていない大浦の海には、まだきれいなサンゴの山や谷がありました。魚たちがいました。竜宮城がいくつもありました。私たちが地上で見ている世界は、自然のほんの一部分で、海の世界には底知れない沢山の命があることを知りました。

2023 年の今頃に、辺野古のリーフを囲むように、帯状に並んだ産卵直後のサンゴの卵が海上に漂っているのを見ました。命が輝いていました。その頃は夢中でサンゴの絵を描きました。

絵を描き始めた最初のころ、辺野古に座り込みにきた人たちの民宿・クッションの稲葉さんに見せると「こんな下手な絵で個展なんか開くんじゃないぞ」と言われました。それで余計奮起して、これまで年に 2 回のペースで展覧会を開いてきました。下手でもなんでも辺野古と大浦湾で起こっていることを多くの方々に知ってもらいたい一心からです。

さて今大浦湾は大変な状況です。2024

年1月10日、国の代執行によって大浦湾の瀬嵩の浜寄りの海上ヤードに石材投下が始まりました。そこはトウカムリポイントと呼ばれる場所です。このトウカムリのような貝が多数生息しています。

辺野古や大浦湾で工事をするということはこういう生物の上に石材や土砂が落ちてくるということです。

また工事を進めるために護岸工事が進み、A護岸といわれる場所では300本以上の鉄管杭が打ち込まれました。この杭は長さ40メートル、直径1メートル以上もあります。

2024年末からは、軟弱地盤と呼ばれる個所の地盤改良のためにサンドコンパクション船が入り、現在6船が稼働しています。高さ70メートルほどある巨大で圧倒される大きな機械船です。

「軟弱地盤」と言うと無機質な地盤を想像しますが、そこは泥地という場所では実は貝などが生息している「命のゆりかご」です。瀬嵩前浜には大浦湾に生息する950種類と言われる貝の多くがゆりあがります。軟弱地盤と呼ばれる場所に由来する貝も、ゆりあがっています。命が大量に殺されています。

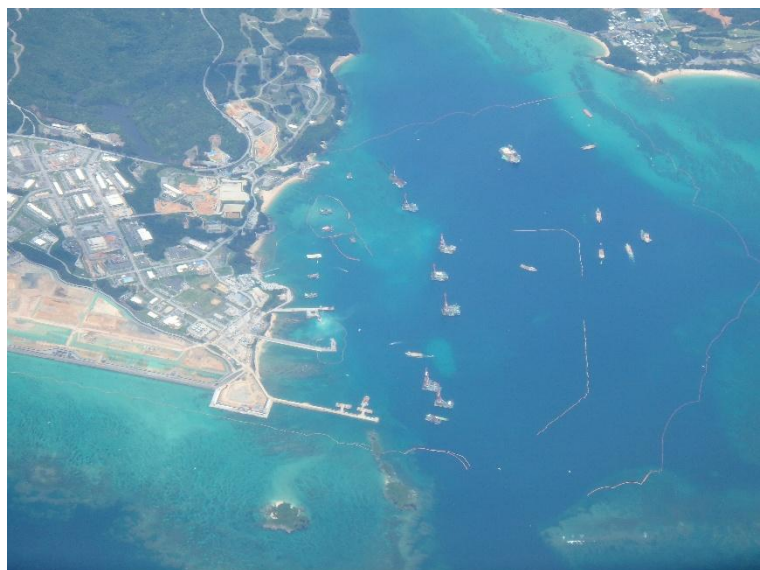
辺野古側では昨年以來辺野古護岸のK4に続

いて、K5、6、7護岸が埋め立てられました。そこも希少サンゴが生息し、魚たちが泳いでいた場所です。今は石やセメントの下になってしまいました。しかもそこは弾薬装填場になります。命を押し潰し、命を殺す武器を装填する場所になるのです。

この大変な状況を知ってもらいたいのので先月5月17日に名護市立中央図書館でフォトジャーナリストの山本英夫さんと2人展を開催し、1日だけでしたが、70人以上の方が鑑賞してくれました。

これは2025年5月20日13時の飛行機から撮った写真です（島しづ子撮影）。

狭い大浦湾にサンドコンパクション船が6船、地盤改良するラインに並んでいます。浜に近い場所には浚渫船が作業しています。そしてその周囲の色が変わっています。これは工事によって濁りなどが生じている証拠です。



5月30日に沖縄防衛局は「大浦湾工事現場のA護岸で濁りが生じたので、杭打ち数を抑えて工事をする」と発表しました。隠ぺいばかりしている沖縄防衛局が発表するぐらいですからひどい状況だとわかります。そして、発表は濁りでしたが、5月23日に私たちはA護岸杭打ち周辺で広範囲にわたる油汚れを見ました。明らかに汚染でした。

こんな風にして海に出て、監視しなければどんどん違法工事は進み、辺野古と大浦湾の破壊は進んでしまいます。

みなさんは海上チームは屈強な者が担っていると想像されていることでしょう。実態は違います。

先月こんなことがありました。

その日の活動時間は海が干潮で、辺野古側から大浦湾に行けないので、メイン船長が大浦湾を急いで操船していました。サブの私は乗船しているカヌーメンバーが大丈夫かと見まわしました。すると船尾で不格好な姿で怯えているカヌーメンバーがいました。海上保安官のゴムボートが接近し、危険なことをしたのでメイン船長が怒ってスピードを上げたら、恐怖で絶叫しています。

私「大丈夫ですか？」カヌーメンバー「大丈夫じゃないです。スピード出しすぎです」と言います。操船していた船長にそのことを伝えてスピードダウンしてもらいました。船長の役目は乗船者の安全

確保が役目ですから。

行動が落ち着いてから、その方が言いました。「私は、本当は船に乗るのが怖い。外洋に出る時は特に怖い。だから乗りたくない。自分はカヌーにもあまり出たくない」

島「ではどうして活動に参加するんですか？」と聞きました。「チームの最近の報告で参加者が少なくて困っているという投稿を見て、何とか来なくちゃと思ったのよね」

海が怖い人がカヌーに乗っています。チームには実は泳げない人も多いのです。ライフジャケットを必ず着けるから大丈夫なんです。

ある時、屈強に見えるカヌーメンバーに「このガソリンタンクを平和丸に乗せてください」と頼みました。その人は「ごめん、腰を悪くして、そういう力はないのよ」。

船長に頼むと、「最近、上腕がここまできか上がらないんだ」。ある人は股関節を痛めていて歩くのも不自由そうなのに、活動に来ます。そういうメンバーたちが屈強な海上保安官と相対する現場に出ています。

そういう方々の姿を見ながら思います。「この人たちはどうして無理してまでここに来るのだろうか？」 辺野古・大浦湾に命が押しつぶされていくことに、やむにやまれぬ思いで通っているのだと思います。

私は週に二回辺野古に通っていますが、海況が悪くて海上行動ができない日は各現場に行って写真を撮っています。キャンプ・シュワブゲート前での座り込み、安和栈橋、塩川、宮城島で牛歩している人、トラックのカウントをする人。集会に参加する人、国会や県で交渉している人々がいます。

私は沖縄の民意が踏みにじられるたびに、「どこに希望はあるのだろうか？」と考え続けてきました。描く絵にも、毎週礼拝で語るメッセージでも、希望を見つけて語ろうと意識してきました。希望はありました。それは各現場でたたかいつづけている人たちの姿です。沖縄の大事な言葉に「命どう宝」があります。私はそのた

めに抵抗運動を続けるみなさんの姿こそ宝であり、希望だと気づきました。

どうか、もう年だから駄目だと思わないで、海上チームにも参加してください。後輩たちが親切にカヌーや操船を教えてください。また抗議船に乗って大浦湾の様子を知ってください。ご清聴ありがとうございました。（以上スピーチ）

カヌーは無理でも、抗議船に乗って現場の様子を見て欲しいです。「軟弱地盤、砂杭は 70 メートルしか打てないから 90 メートルの軟弱地盤に砂杭は役に立たない、大浦湾の新基地建設は完成の見込みは無い」という理屈を語る声に実は飽き飽きしています。その無理なことが目の



4 月 25 日の海上大行動。サンドコンパクション船の大きさがわかる

前で行われて、むざむざと命が押しつぶされています。天に唾する行為です。県の土木局との交渉でも、現場を見ようとしない姿勢にイライラします。現場に来て、理屈をこねる人にもイライラします。この現実を見て他の言葉を発してもらいたい。みなさま、

抗議船の上でお会いしましょう。

『平和の国・日本』誕生と 食糧自給で平和を世界に広げましょう

会員 尾崎秀子（平和を願う市民の集い heiwa.ring@gmail.com）

私は、2022 年と 2023 年にウクライナ支援のカテリーナ・グジーさんのコンサートを、2024 年には、イスラエルのガザ攻撃、抑止力について、ダニー・ネフセタイさんから学ぶ講演会を茨城県・つくば市で開催し、今起きている戦争について、遠く離れた日本で暮らす私たちに何が出来るかを考えて参りました。

私は 1948 年、大阪生まれで、夫の転職で憧れの農村地域に住まいを得て、農村文化の奥深さを知りましたが、それと同時に、他と同調する文化の根深さも知り、農村が変わらなければ政治は変えられないことも痛感しました。

2001 年にガラス絵作家児玉房子さんと



カテリーナさん（右）と筆者

出合い、コスタリカが、軍隊を捨てた国と知りました。翌年、秋田市に転居直後に、早乙女勝元さん企画の映画「軍隊を捨てた国」の上映会に参加し、そこでの発言がきっかけとなり、児玉房子さんの「コスタリカ展」を秋田市で開催（3 回）。平和運動の仲間にも入れて頂き、どうしたら武力に頼らない・国づくりができるのかを考え続けてきました。同時に、「秋田には何もない」、と若者が流出していくのを止めたかった。外の空気を吸って秋田の良さを再認識し、戻ってきてほしい。必要なものは自分たちで作る努力をしてほしい。小さな幸せを大切に生きてほしいと、今も考えています。

2015 年に夫が秋田県立大学を定年退職し、つくばに戻りました。

戦後 80 年、今も残る多くの苦しみ、悲しみ、痛みと共に生き抜いて、戦争の悲惨さを伝え続けている戦争体験者の皆様のご努力に感謝し、戦後生まれの私に出来ることは、二度と戦争を起こせない国づくりの提案を発信することだと気づきました。

『平和省』の創設を

憲法 9 条誕生時に、平和を実現させる

機関として「平和省」が必要という考えを出せなかったために、自衛のための軍隊は必要という、従来の武力に頼る意識が復活してきました。軍隊が市民を守るのは幻想で、敵・味方の別なく、命も暮らしも精神も破壊することを、未来を委ねる若者世代に伝えましょう。

戦後 80 年を経た今こそ、軍事力で国を守るという『防衛省』を、平和を創る組織『平和省』に名称変更し、防衛省が管理する基地を含む全ての財産をここに移行します。

この『平和省』を日本の平和外交の中心と定め、〈世界の平和を考える場〉を、提供します。あらゆる人脈・英知を集め外交努力を積み重ね、まずは近隣諸国と信頼関係を築き、平和を創り出せることを、世界に示しましょう。

何があっても、飢えることなく安心して暮らせる『平和の国・日本』の誕生は、世界の平和を願う人々の希望になり、尊敬され、頼りにされること間違いなしです。根気よく話し合い、時には相手を助け、互いに歩み寄り、平和は作り出せることを実証しましょう。

市民総出で、国を挙げて、戦争を回避する手立てを、平和への道筋を、手探りで少しずつ開拓し、確実に創り出して参りましょう。

ここで、難関は日米安保条約です。「日米安保条約が年々強化され、今更条約破棄は出来ない」と、思い込んでいる方は多

いでしょう。ところが、幸いなことに、この条約の相手国、アメリカ合衆国大統領・トランプ氏は、「アメリカ・ファースト」を掲げ、「前政権が約束した取り決めは、誤っている（自身の判断ですが）、全て破棄してよい」と公言し、世界との大事な約束事も次々と反故にしています。今がチャンスです。トランプさんに伝えましょう。

「貴国との安全保障条約は、我が国の平和憲法・9 条に矛盾し誤りであると気づいたので、破棄します。今後貴国とは、軍事同盟ではなく、世界平和につながる方法で、全面的に協力します」と宣言すればよいのです。（日米安保条約 10 条に、日米いずれか一方の意思により、1 年間の予告でこの条約を廃棄できる旨規定しています）

戦争は人が起こすもの

戦争は回避できます

自衛隊の皆さんに期待すること

防衛省・自衛隊には身体能力、精神力あふれる若人が大勢いて、資金も潤沢です。

（夢や希望あふれる若い人の人生を、戦争訓練で消耗させるのはもったいない）

自衛隊の皆様には、平和省の一員として、平和に役立つ仕事を、自由な発想で考え、得意な分野で働いていただきましょう。既存の各省庁に山積する仕事も基本的には平和につながる仕事です。平和省以外にも、いろんな分野で活躍いただ

ます。

今まで防衛省に集められた人的財産、
機材・機器、各種情報、訓練法、広大な基
地も全て、「平和な暮らしを創り・維持す
る」ために使えるように再生させます。武
器も兵器も持てるもの全てを、平和利用
できるように再生させる・平和産業を興

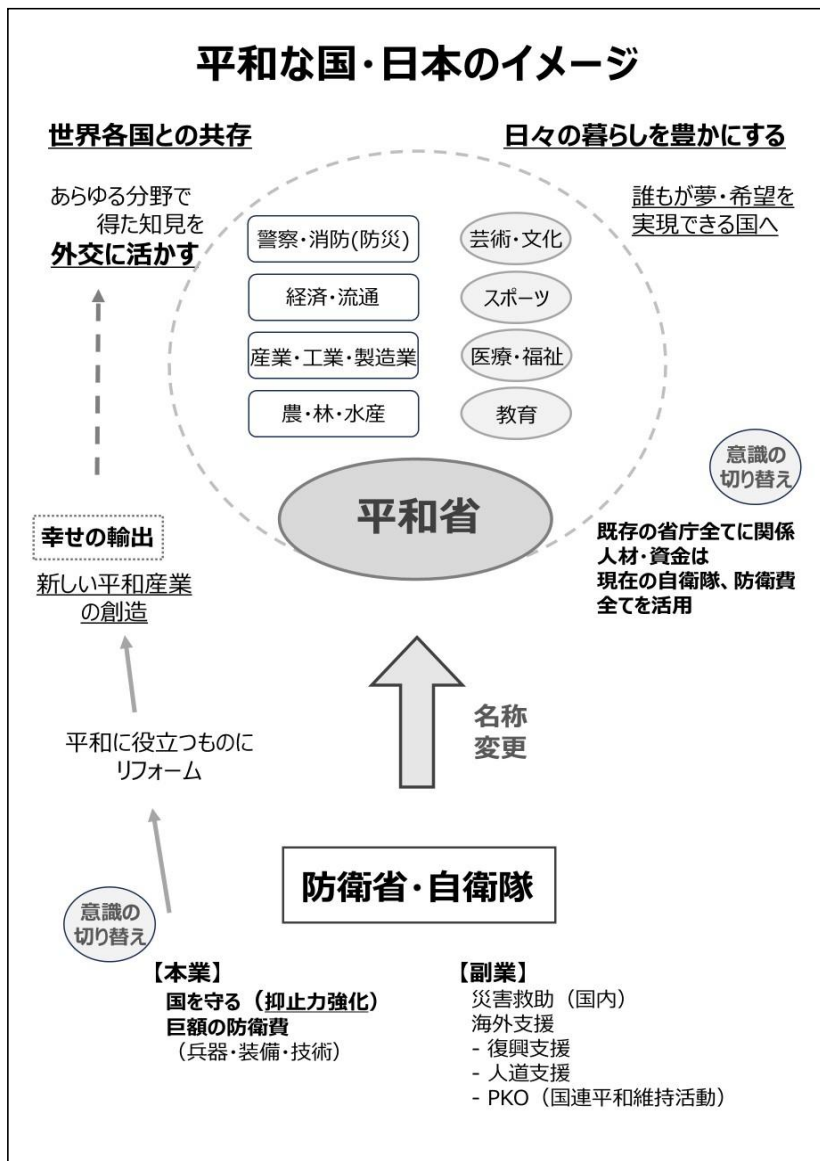
します。工場、研究所、本社も設置場所は、
各地にある（港、飛行場を有する）基地を
活用しましょう。地代使用料は国庫から
自治体へ還流させます。沖縄県はこの平
和産業で潤い、兵器の平和利用への再生
技術も製品も輸出して、幸せの生産サイ
クルを廻します。辺野古基地建設は直ち

に停止。普天間基
地の広大な土地を
どのように利用す
る？わくわく・ど
きどきしてきます。

【日本は資源のな
い国】というのは
大間違い

日本は自然資源の
宝庫。平和を生み
出す原資です・・・
→日本は世界でも
有数の豊かな自然
を持つ国です

いのちは自然の
中で生まれ育ちま
す。農山村で自ら
体を動かし、命の
源・食料の生産に、
少しだけでも手を
貸してください。
暑さ、寒さに耐え、
私たちの命を育む



作物の成長する姿にふれ、いのちを育てる喜びを感じてください。農林業は命を生み出す貴重な仕事です。

《食糧確保は安全保障・

平和な国の一番大事な仕事》

他国に依存するのは危険です

多額の税金を投入してでも、国の食は国の責任で確保しなければなりません。

現在の防衛予算の 6 割を農山村再生に廻して、農業で暮らしが成り立つ仕組みを作りましょう。農業で暮らしが成り立つなら農家志望の若者は沢山いるでしょう。都市で暮らす方々も、田舎暮らしを楽しめる仕組みを作り、都市と農村の交流を深めれば、自らの食の自給を手掛ける人も増えてくるでしょう。主食の自給率は 120%まで上げ、国と民が協力して、楽しみながら、誰一人飢えない国を創りましょう。

過疎化する農山村には、自由な暮らしを楽しめる空間があります。ただ、現状は高齢者が多く、若い力が必要です。各自が、自立して生きるという強い意志を持つ、若人の力が必要です。

自衛隊の皆さんの新しい仕事先として、家族で移住というのはいかがでしょう？ 地元からも大歓迎されること間違いなし。ともに暮らす地域の人々の暮らしの知恵を受け継ぎ、知恵と力を出し合って協働

作業を担い、互いの夢や希望を実現させていきましょう。

農山村の活性化が人口流入を招き、人口増加で新たな文化も生まれます。学校も商店も出来、交通手段も新しい仕組みが組み立てられていくでしょう。自ら働く喜びを取り戻し、田舎の自由な空間で、何がしたいか、何ができるか、夢や希望を実現させましょう。ぼ～っとした時の流れも魅力的。この幸せ感こそが、平和の源になると信じています。

都市においても、あらゆる空間を利用して緑化を進め、身近なところに、ほっとする場所を作りましょう。田舎も都会も、いのちあふれる緑豊かな風景は平和の象徴です。

胸を張って、伝えましょう

穏やかに生きている日本の暮らしは平和
そのもの　これが“幸せの姿”です！

〈最後に皆様をお願いします〉

経済的に余裕のある方は、「はだしのゲン」(漫画本全 10 巻)を購入し、身近に居る戦争を知らない世代の方々に(手渡しで)貸本の仲介役をお願いしたいです。この漫画の世界が再現されることがないように、一人でも多く、各地で、各国で、読んでもらいたいです。政治家の方にも、ぜひおすすめください。

私の非暴力直接行動

谷 百合子（札幌在住）

ささやかな非暴力直接行動（反核燃運動の場から）

1945 年敗戦（終戦）の生まれなので毎年「今年は戦後〇年」と、否が応でも自分の年を再確認させられます。二足歩行も危うくなり、デモやスタンディングも遠慮しようと思っていたら、「市民運動に定年はないのよ」と長年の市民運動仲間に諭されました。「老がい」に気を付けながらもうしばらく世界の平和を注視していきたいと思います。

高校、大学と新聞部に在籍し、先輩から「新聞記事は足で書く」と超アナログで鍛えられたせいか、現場（現地）に呼ばれるきらいがあります。ささやかな現場体験の一例を述べさせていただきます。

チェルノブイリ事故から 2 年後の 1988 年、北海道に原発建設が持ち上がり、反対運動が強まりました。私も抗議行動の日々でしたが、都会の消費者の感覚ではなく、原発現地の実情を知りたいと思い、北海道や東北の原発現地を 2 週間かけて歩きました。青森県六ヶ所村の再処理工場反対で通っていた知人の「ここに来ると日本が見えるよ」の一言で 15 年、六ヶ所に通い詰めることになりました。そこで「核燃いらない女たちのピースキャンプ」の立ち上げから参加することになり

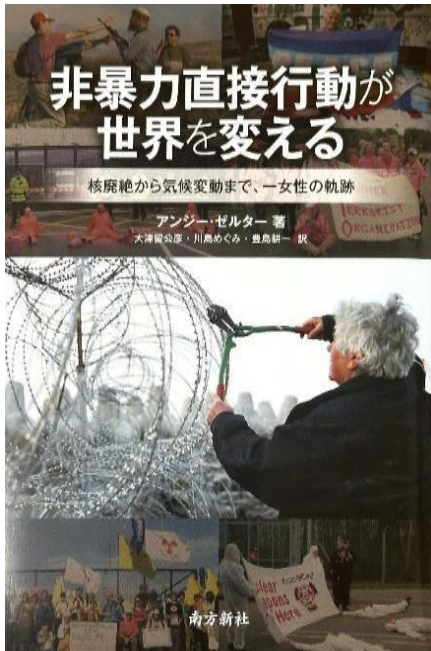
ました。

従来の男性主導（？）型のデモの、警官とのぶつかり合い、労組の運動スタイルに距離感を感じてはいましたが、男たちを排除するのではなく、何とはなしに女たちでやりたいという流れで、キャンプは始まりました。当然、男たちの間で議論が起きました。「女たちだけというのは差別だ！」「いいよ、いいよ、やりなさい、今まで男たちがいいようにやってきたんだから、応援するよ」と男たちも試されました。女たちも改めて「なぜ女たちなのか？」を問いながらのキャンプでした。

女たちのテントのモデルになったのは、イギリスのグリーナム・コモンでの女たちの反核運動があります。スコットランドの米軍ミサイル基地配備に反対して 15 年間、世界中から女たちが集まり、テントを張り基地を撤去したのです。その流れを組む、アンジー・ゼルダーさんを日本にお招きしました。彼女は東チモール弾圧を行っているインドネシア支援に向かう軍用設備を家庭用の金槌で壊し、無罪を勝ち取った女性です。

広島の（故）大庭里見さんと日本での講演を企画し、札幌でも講演会をお願いしました。我が家にも泊まって頂きましたが、とても穏やかな方でした。「核が 1 個

もなくなるまで、逮捕され続ける」という言葉に衝撃を受けました。詳しくは彼女の著者「非暴力直接行動が世界を変える」南方新社をお読み頂きたい。



グリーンナムのピースキャンプよりかなり小規模ではありますが、六ヶ所村の女たちのテントは、六ヶ所村・新納屋の泉金吾さんの神社で始まりました。毎朝、静かに思いを語り、核燃の周辺に咲く野菊、秋桜、紫陽花、向日葵を摘んで、直立不動で立っている東北六県の駐在さん（延べ6080人）に花を差し向けました。涙ぐんでいる若いお巡りさんもいました。ウラン搬入時、1歳半の子どもを抱えたKさんにお巡りさんが「僕と約束してください！トレーラーの前に行かないでください！核燃止める前に車に轢かれたら何に

もならないじゃないですか！」と懸命に叫んでいた姿と声が記憶に残っています。

1か月のテント生活の間に台風が3度も到来しましたが、女たちは予定したアクションのほとんどをやりとげました。子連れ4人で立つだけであの巨大な電動の門が閉まるのです。何が怖い原燃さん？その他、キルト・編み物・ハンスト、体育館前でのゲリラシアター、歌も次々生まれ、歌を合図に警官に気づかれずに次の行動に移り警官が悔しがっていました。逮捕されないための非暴力トレーニングもしました。テントの仲間たちとは、ひとつ釜の飯の譬でしょうか、いまでも強い信頼で繋がっています。彼女たちは福島・新潟・東京・大阪等、各地で活動している、現役の市民運動仲間です。

ドイツの反原発市民との出会い

ドイツ統一の翌年、核のゴミ予定地のゴアレーベンを訪れました。森の中にある木造の瀟洒な教会の「60歳以上の反原発の会」に招待され、1週間ほど教会に泊めて頂きました。20名ほどの方が、籠にクッキーとお茶と蝋燭を携えて月1度原発を止めるための作戦会議を開くとのことでした。（蝋燭は原発の電気を使わないため）。皆さんゴアレーベンの核廃棄物場建設反対で様々な非暴力行動をなさっていました。

再処理工場を止めた記録映画「核分裂過程」に登場していた方達と差し向かい

で会話ができ感動しました。この映画は「第八の戒律」と合わせて北海道で何度も上映会をしました。教師をしていた女性は、向こう側にいる警官をこちら側に何人も引き抜いたそうです。テントの仲間にパンを配っていた女性にも会いました。皆さんとても勉強なさっていて、六ヶ所村の地盤が悪い事や、日本の憲法は素晴らしいが自衛隊が心配、原発が導入された経緯など、お話は多岐に亘りました。

市民戦争を呈した、バックース・ドルフの再処理工場の戦いは、市民と警官双方3人の死者を出して中止になりましたが、その闘いの森へご案内頂きました。カトリックとプロテスタントの神父と牧師が週替わりで深い森の中でお祈りを続けていました。色々な宗教の神が祭られており、蠟燭が筒の中にまだ灯っていました。

日本とドイツの闘いの違い

1995年2月5日に青森県の知事選挙があり、反核燃を訴えて立候補した大下由美子さんが59,101票を獲得しました。当選は叶いませんでしたが、日本山妙法寺の僧侶Mさんが言われた言葉が今も心に残っています。「大下さんに一票入れた人がみんな出てきて、核燃を囲めば事態は変わっていくでしょう」と。ドイツではデモになど出たことのない人たちも立ち上がって核燃を包囲したのです。

1991年、湾岸戦争の時、私は一人で札幌の米領事館前に「戦争やめて」を掲げて立ちました。恐怖がなかったとは言えません。しかし同じ思いを持つ仲間がどこかで訴えているという確信がありました。やがて領事館前は溢れる市民で埋め尽くされました。

平和に近づくために、様々な場所で様々な非暴力直接行動を実現していきたいと思います。



新発寒教会では毎月ガザやウクライナ、ミャンマー問題などを訴えスタンディングしている（筆者は左から3番目）

NPJ 2024年度予算・実績

2025年3月31日

項目	2024年度予算	2024年度実績	備考
参加費			
会費	400,000	457,000	会費、カンパ共に大幅増加。感謝
カンパ	400,000	651,000	
雑収入	0	2,571	
経常収入計	800,000	1,110,571	
発送配達費	60,000	50,121	注1
給料手当	240,000	240,000	
事務所賃貸料	60,000	60,000	
振込料	15,000	14,174	
事務費	5,000	14,850	
旅費交通費	20,000	4,700	
通信費	10,000	0	
雑費	50,000	0	
広報費	100,000	41,250	注2
活動支援費	310,000	447,410	注3
会場費	20,000	0	
講師費用	20,000	0	
経常支出計	910,000	872,505	
当期経常収支過不足	-110,000	238,066	
前期繰越剰余	-138,159	-138,159	
今期経常繰越剰余金	-248,159	99,907	
特別収支			
前記残高	917,310	917,310	
特別カンパ			
今期支出	240,000	240,000	注4
特別収支残高	677,310	677,310	
未払金	0	0	
残高合計	429,151	777,217	

注1：ニュースレター89号～91号

注2：ウェブ管理費：3,300円 x 12ヵ月

注3：NARUPI支援：30,000円

沖縄活動費（経常会計分：車両賃貸料）240,000円、
大畑ガソリン代48,000円、沖縄―東京航空運賃他

注4：沖縄活動費（特別会計分）

NP 2024 年度活動報告 (抜粋)

理事 大橋祐治

NP の 2024 年度決算について監査報告書がウェブに掲載されていますので、概要を下記報告いたします。

収入、支出それぞれ 2023 年度の数値を参考として記載しております。

1. 収入

2023 年度の収入は前年度並みでしたが、2024 年度も若干の増加にとどまりました。資金調達の厳しさがうかがわれます。政府援助（含む国連）の主要国ではオランダ、英国からは増加、米国、EU からは減少しています。政府援助はほとんどひも付き（支援先、内容等が決められている）ですが、NP が自由に活用できる個人寄付が増加しています。

2. 支出

① 南スーダン、フィリピン、イラク、スーダンへの支出が減少し、ウクライナへの支出が顕著に増加しています。米国への支出も増加しています。この傾向は 2023 年度から続いており、調達資金の制約もあるとは思いますが、適切なリソースの活用の様子を物語っていると思います。南スーダン、フィリピンでは情勢が落ち着いてきていると思われます。

② ウクライナは南スーダンに次ぐ規模の活動拠点になっています。

ウクライナでは国際機関の支援が及ばないアクセスが困難な最前線の地域で、現地のボランティア集団や組織と連携して食料・医薬品等の配布、安全な避難場所の提供、避難場所への誘導・同行サービスなどの支援を行っています。

③ 先住民のジェノサイド、アフリカの奴隷化、LGBT やアジアなど有色人種コミ

ュニティーへの差別など歴史的に暴力が DNA に組み込まれている米国では、そうしたコミュニティでの非暴力活動を活発に展開しています。

主としてミネアポリス、ニューヨーク、サンジェゴで現地のボランティア団体と協同して直接的な保護活動や非暴力トレーニングを行っています。

④ コンゴ民主共和国での活動を開始したようです。

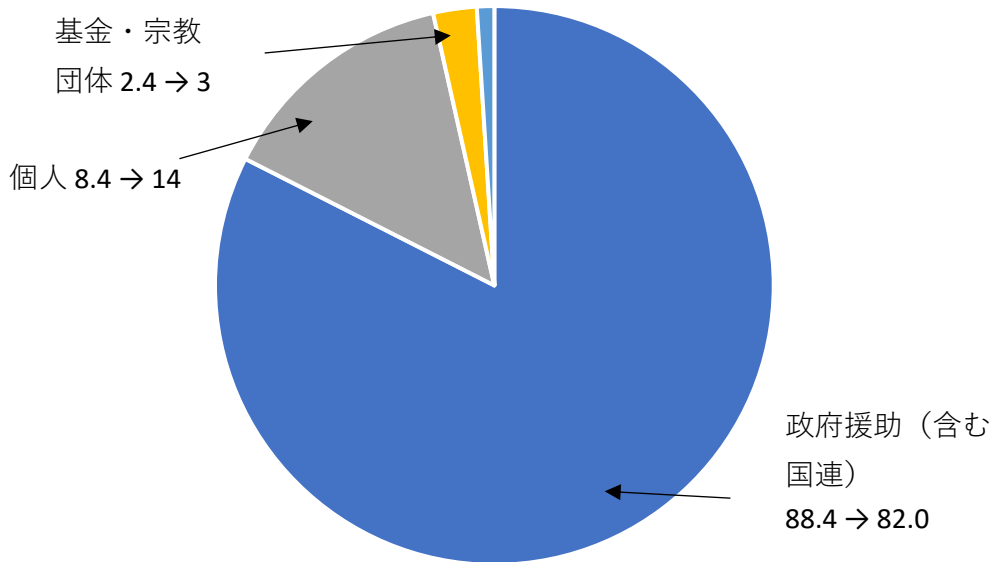
ウガンダ、ブルンジと国境を接する東部地域で数多くの武装集団による紛争で数百万人が国内および国境を越えて避難を余儀なくされています。国連平和維持ミッション（MONUSCO）が活動を縮小しており、市民の保護責任はコンゴ政府と国内機関に移行しています。

NP は市民保護と非暴力的な紛争予防に関するコミュニティメンバーのトレーニング、コミュニティと武装集団間の仲介活動を現地ボランティア団体との協同で支援を始めました。

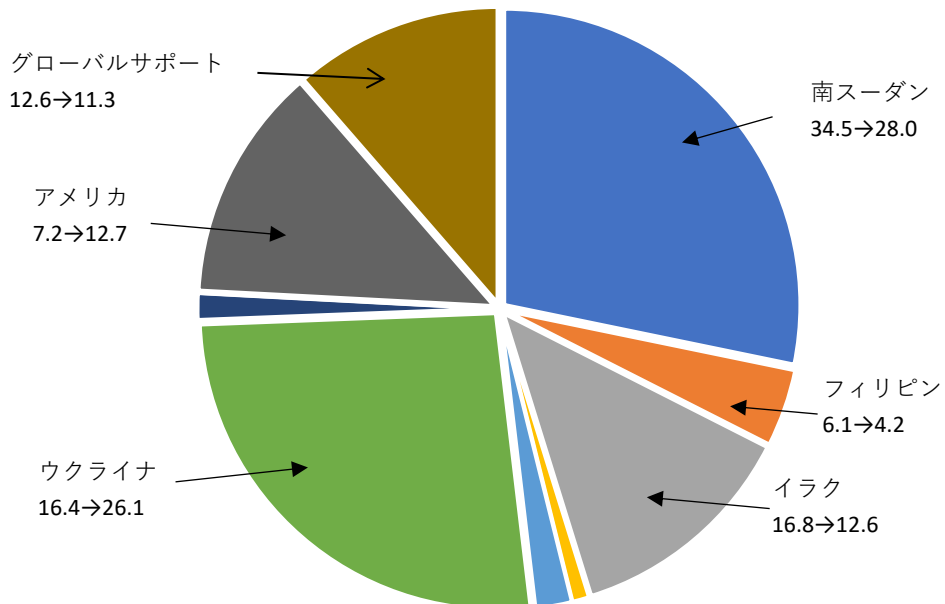
NP を含む 75 を超える団体が、2025 年 5 月 28 日付のトランプ政権の過酷な削減による外国援助の削減に深刻な懸念を表明し反対する書簡を米国議会に送付しました。

この書簡は、これらの削減措置は、本来防ぐことができた死亡事例、感染症の拡大と抗生物質耐性、および世界的な貧困、不安定さ、暴力の増加を引き起こすこととなり、米国が長年掲げてきた価値観と現在の人々の見解に反し、本来防ぐことができたはずの世界的な貧困、不安定性、暴力の増加を引き起こすことになり、世界中の民間人に対して壊滅的な影響を及ぼすことになる、と警告しています。

2024年度収入（前年度\$27.3） -> \$ 28.4百万



2024年度 支出（前年度\$27.2） -> \$27.3百万



その他活動地域：ミャンマー、スーダン、インドネシア、コンゴ共和国



Nonviolent Peaceforce

非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援して下さる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申込みは、**郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊・日本のウェブサイトの入会申込ページ**をご利用くださいますようお願いいたします。

◎ **正会員（議決権あり）**

- ・ 一般個人：10,000円
- ・ 学生個人：3,000円

* 団体は正会員にはなりません。

◎ **賛助会員（議決権なし）**

- ・ 一般個人：5,000円（1口）
- ・ 学生個人：2,000円（1口）
- ・ 団体：10,000円（1口）

■ **郵便振替**: 00110-0-462182 加入者名: NPJ

* 通信欄に会員の種類を（賛助会員の場合は口数も）ご明記ください。

■ **銀行振込**: 三井住友銀行 白山支店 普通 6622651 口座名義: NPJ代表 大畑豊

* 銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話・ファックス・メールのいずれかを通じて入会希望の旨、NPJ事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

■ **ウェブサイトからのお申込み**: http://np-japan.org/4_todo/todo.htm#member

今年は夏季にニューズレターを出すことができず、夏季カンパをお願いできませんでしたが、そんななかでも皆さまからのカンパをお寄せいただき、ご支援に心から感謝申し上げます。（敬称略、4月～9月、9件、80,000円）

朝倉恵、柳沼清正、矢島十三子、石田明義、土屋春代、永山倫太郎、
渡名喜隆子、石丸敏子、武藤陽一

6月23日には沖縄戦の組織的戦闘が終わり、9月2日には日本軍の降伏調印式、9月7日に現在の嘉手納基地内で沖縄を含む南西諸島の降伏調印式が行われたが、その後も米軍との戦闘、日本軍による虐殺は続いた▼沖縄地元紙には連日こうした沖縄戦関連の記事が掲載されるが、阿波根昌鴻写真展で札幌に行くと、沖縄の記事はほとんど掲載されない。まるで別の国に来たような感覚に襲われる▼本号に尾崎さんによる平和省の提案があったが、反対に米国は国防総省を「戦争省」に改称するとの発表があった。「防御だけでなく攻撃に出る」「最大限の破壊効果」を公言。歴史の時計が逆回転し始めていることに恐ろしさを感じる▼石破氏が辞任した。辞めるなどの声が「リベラル」の側からもあったが、2013年、当時幹事長であった石破氏は普天間県外移設を主張して当選した沖縄県選出自民党国会議員たちに県内移設を認めさせ、辺野古新基地を沖縄に押し付けた張本人でもある。「平成の琉球処分」と沖縄では報道された▼辺野古では知事の権限を取り上げてまで、政府は完成の見込みのない、税金無駄使いの工事を強行、抗議中に重症を負った被害者が加害者とされ、根拠のない家宅捜査が強行され、ゲート前では逮捕が繰り返されている。「弾圧は抵抗を呼び、抵抗は友を呼ぶ」（瀬長亀次郎）。沖縄は決してあきらめない。（大畑豊）